

ニュースクリップ & 映像教材

- 第19回すかがわ国際短編映画祭
- NHK放送技術研究所「技研公開2007」
- 博報児童教育振興会「2007年度第38回博報賞推薦受付」
- 「New Education Expo2007」開催
- 情報メディア学会「第6回研究大会」

AV情報

■第19回すかがわ国際短編映画祭

すかがわ国際短編映画祭実行委員会・須賀川市・須賀川市教育委員会主催による標記映画祭が下記のように開催される。

〈日程〉

平成19年5月11日（金）～13日（日）

〈会場〉

須賀川市文化センター（福島県須賀川市牛袋町11）

〈上映作品〉

日本、アイスランド、ノルウェー、デンマーク他国37作品を上映。詳細は、<http://yagi-building.com/sisff/>を参照。

〈入場料〉

1日券 500円 3日間共通券 1000円 高校生以下無料

〈問い合わせ先〉

すかがわ国際短編映画祭実行委

員会事務局（須賀川市教育委員会生涯学習課内）

TEL 0248-75-1111（内444）

■NHK放送技術研究所「技研公開2007」

NHK放送技術研究所では、下記のように研究所を一般公開する。

〈日程〉

平成19年5月24日（木）～27日（日）10:00～17:00（入場は16:30まで）

〈場所〉

NHK放送技術研究所（東京都世田谷区砧1-10-11）

〈展示内容〉

「未来のテレビ・新サービス」臨場感あふれる映像と音声を楽しめるスーパーハイビジョンや立体テレビ、未来のテレビの世界。「作る 送る 使う」技研の最新の研究成果について、番組を「作る」「送る」「使う」技術に分けてわかりやすく展示他。

※入場無料。詳細は、<http://www.nhk.or.jp/strl/open2007/index.html>を参照のこと。

■博報児童教育振興会「2007年度第38回博報賞推薦受付」

（財）博報児童教育振興会では、「ことば」「文化」を重視して、次代を担う子どもたちの「豊かな人間性の育成」に取り組まれている団体、個人を顕彰する博報賞を贈呈している。賞の贈呈にあたり、推薦を下記の要領にて受け付けている。

〈推薦受付期間〉

平成19年年4月1日（日）～5月31日（木）

〈推薦対象部門〉

○国語・日本語教育部門

○特別支援教育部門

○文化教養育成部門

○教育活性化部門の4部門

※詳細については、<http://www.hakuhodo.co.jp/foundation/>を参照のこと。

ブックレビュー

笠戸丸から見た日本

したたかに生きた船の物語

宇佐美昇三 著



「笠戸丸から見た日本
—したたかに生きた
船の物語—」

宇佐美昇三著 海堂堂出版(株)
2007年2月刊 A5上製 400頁
3,990円(税込)

わが国は海洋国家であり、海との歴史は古いはずなのだが、小・中・高校時代または大学時代に海の歴史について学んだ記憶はないことを感じながら、本書を読み始めた。そもそも、海事史という分野があること自体、大方の人は認識がないのではないか。

本書の扱うテーマは「笠戸丸」という船を通して、国際社会と日本との関係を論じた論文とも言えるが、近代国家が形成される頃の日本について述べたドキュメンタリーであり、謎解き本であり、また歴史小説として読むこともできる大作である。

視聴覚教育関係者にはぜひお勧めしたい一冊である。というのは、歴史を追い求めていく態度や姿勢、思考方法と調査研究の方法論をみごとに実例として示しているからである。私にと

って一番の収穫は、ひとつのテーマを解き明かしてくれる手法を学んだ点である。27章で構成されているので、每晚1章ずつ読み進める楽しさを満喫しながら、その一方で、歴史を解明する著者の眼差しと眼光を想像しながら読むと大変面白い。

さて、「あとがき」に辿り着いて、ようやく「なるほど」と納得した。元ジャーナリストであり、教育者・研究者である著者自身が言うように、「調べ物には、文献研究、内容分析、面接、現地調査といったさまざまな手法があり、本書がそうした手法を指導したり、学んだりしたいと思っている方々に実例を提供する一助になれば」と控えめに述べているが、この本はその意味で成功している作品である。

(常磐大学教授 水嶋英治)

〈賞贈呈〉

4部門の団体・個人合わせて25件前後。正賞に賞状。副賞には、団体、個人ともに100万円。また受賞者の中から、特に奨励に値するものとして、文部科学大臣奨励賞が授与される。

〈応募〉

推薦は都道府県市区町村教育長等の推薦による(自薦不可)。推薦書(A4 2枚)はホームページからダウンロード可能。提出は郵送による。

〈発表と贈呈式〉

平成19年9月下旬に受賞者と推薦者に通知。11月20日(金)東京にて贈呈式を予定。

〈問い合わせ先〉

(財)博報児童教育振興会
TEL 03-3233-6788

■「New Education Expo 2007」開催

New Education Expo2007実行委員会主催による、標記セミ

ナーが、東京と大阪で開催される。「教育改革」「教育の情報化」「地域教育ネットワーク」「情報モラル」「学校の安全・安心」等をテーマに、講演、実践事例発表や教育関連展示会等。

〈日程・会場〉

○東京会場：平成19年6月7日(木)～9日(土)東京ファッションタウン(東京都江東区有明3-1)

○大阪会場：平成19年6月20日(水)・21日(木)大阪マーチャンダイズ・マート(大阪市中央区大手前1-7-31)

※入場は無料。

〈内容〉

○基調講演

銭谷眞美氏(文部科学省初等中等教育局長)、小野元之氏((独)日本学術振興会理事長)、梶田勲一氏(国立大学法人兵庫教育大学学長)、坂元昂氏(東京工業大学名誉教授)、清水康敬氏

((独)メディア教育開発センター理事長)、門川大作氏(京都市教育委員会教育長)

○特別講演

陰山英男氏(立命館小学校副校長)

〈詳細ならびに申し込み〉

詳細は、順次決定のつど、下記ホームページにて公開。参加申し込みもホームページhttp://expo.uchida.co.jpから。

〈問い合わせ先〉

New Education Expo実行委員会事務局(株)内田洋行 教育総合研究所
TEL 03-5634-6397

■情報メディア学会「第6回研究大会」

「ユビキタス情報社会基盤の構築に向けて」を基調テーマに、情報メディア学会(渡部満彦会長)では、標記大会を開催する。〈日時〉

平成19年6月23日(土) 9:30

ブックレビュー



「リッチコンテンツ・マーケティングの時代」

日経BP社 nikkei BPnet編 日経BP社
2007年2月刊 A5変形 256頁
1,575円(税込)

ネットマーケティングにおけるコンテンツの動向を探るビジネス書だが、教育関係者も興味深く読むことができる。

Flash Video・ストリーミング配信・HD映像などネット技術の進化に伴う新たな動画・映像表現の導入、テレビやサイト企業がクロスメディアとしてWebやケータイ等への動画・映像配信サービスの参入などコンテンツマーケットが変わり始めている報告がされている。これからのキーワードとなるのは動画・映像であることが強調されている。「先行する米国 進むビデオの時代」の項でのレポートからは、ビデオ共有サイト「YouTube」の成長と「Google」をはじめとするネット企業のビデオ配信事業参入のねらいも読み取れる。日本でもテレビとWebをクロスさせたCMが増

えてきているのも事実であり、ケータイやWebサイトに動画・映像CM等を配信して成功している企業の報告も頷けるものがある。

教育現場が本書から学ぶべきは、ただ映像を使うだけでは成果は上がらない、利用者と映像がコミュニケーションするクロスコミュニケーション可能なりッチコンテンツであり、その表現技法も従来の教育映像に携わってきた筆者にとって非常に興味深い。映像の面で遅れている情報教育分野、映像のネット配信利用が熟さない視聴覚教育と、教育はネットワークコンテンツの進化とは無縁の所に見えるようになってしまふ。ネット技術の進化により鮮明な映像配信が可能になった今日、教育での映像利用の有りさまを改めて考え直させる一冊である。(松田 實)

(受付開始) ~17:30

〈会場〉

東京大学本郷キャンパス工学部
2号館新館9階情報学環プレゼンテーションルーム (東京都文京区本郷7-3-1)

〈内容〉

○基調講演「ユビキタス情報社会基盤の構築に向けて—総論」
(仮) 坂村健氏 (東京大学大学院情報学環・副学環長)

○特別講演「ユビキタス・コンピューティング技術の応用」
(仮) 越塚登氏 (東京大学大学院情報学環)

○情報・メディアに関する多様な観点からの研究報告(ポスター発表)

○各種技術的成果の報告(展示)
〈参加費〉

会員 2,000円 非会員 3,000円
学生 1,500円

※上記には資料代・交流会費を含む。

〈申し込み先〉

平成19年年6月18日(月)までに、<http://www.jsims.jp/>より申し込み。もしくは郵便、FAXにて下記事務局まで。

〈問い合わせ先〉

〒305-8550茨城県つくば市春日1-2 筑波大学図書館情報学研究科内情報メディア学会事務局
FAX 020-4623-1228

短 信

■文部科学省生涯学習政策局参事官付の異動

○教育メディア調査官 津久井賢氏→男女共同参画学習課家庭教育支援室室長補佐(後任:内閣府男女共同参画局推進課課長補佐=清水博人氏)

○庶務係長 林健悟氏→社会教育課庶務係長(後任:放送大学学園総務部総務課総務係長=塚田昌毅氏)

○教育情報施策調整係長 塚部

暢之氏→科学技術・学術政策局原子力安全課専門職(後任:生涯学習推進課民間教育事業振興室民間教育事業第1係長併・民間教育事業第2係長=大坂香織氏)

○ネットワーク係長 原田清光氏→東京工業大学学務部教務課学部教務係主任(後任:国立教育政策研究所総務部会計課管理係長=佐藤泰司氏)

○学習情報係主任 船木茂人氏→放送大学学園総務部総務課総務係長(後任:なし)

○学習情報係長 山本由記氏(前社会教育課法規係主任)

○学習情報係員 本江隆典氏→富山大学財務部経理課契約室契約第二係

○メディア係員 太田宏嗣氏→大臣官房人事課任用班調整係(後任:内閣府原子力安全委員会事務局総務課技術係併・申告調整係=竹本明弘氏)